

没後五〇年 郷土の書聖

鈴木翠軒

令和8年 8月8日 土 10月4日 日

観覧料

一般310円(240円) 小・中学生150円(120円)

()内は20名以上の団体割引料金

*東三河の小中学生は「ほの国」子どもバスポートの掲示により無料

*障害者手帳(ミライロID可)をお持ちの方と付き添いの方1名無料

9月26日(土)は鈴木翠軒の命日のため観覧無料

開館時間 午前9時から午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日 毎週月曜日※但し9月21日(月・祝開館、9月24日(木)休館

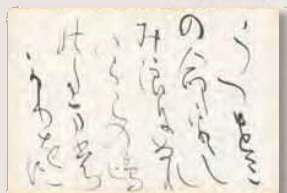
同時開催

「渡辺華山の生涯」常設展示室、企画展示室2
渡辺華山「仲秋歩月五言律詩」などの作品を展示します。

田原市博物館



「万葉一首(巻1-48)柿本人麿歌」(同作品、迎賓館)1974年
ひむがしの のにかぎろひの たつ見えて
かへりみすれば 月かたぶきぬ



「万葉一首(巻1-24)麻統王歌」
([「万葉の歌碑」揮毫元原本)1961年
うつせみの 命ををしみ 浪にぬれ
いらごの嶋の たまもかりをす



「新月未離山(碑、高野山)」1963年

没後五〇年 郷土の書聖 鈴木翠軒

鈴木翠軒は、一八八九(明治二十二年)に渥美郡堀切村(現、田原市堀切町)に生まれ、本名を春視、号を翠軒と称しました。

愛知県立第四中学校(現、愛知県立時習館高校)、愛知県立第一師範学校を経て、福江尋常高等小学校(現、田原市立福江小学校)訓導となりました。

一九一六(大正五)年、文部省習字科検定試験に合格を機に上京(一九一九年)、丹羽海鶴に師事します。一九三二(昭和七)年には、『甲種小学書方手本』(国定教科書)の揮毫者(一九三八年完成)となり、全国に翠軒の名が広まりました。戦後は、日展審査員(後に常務理事)などの要職を歴任、一九五七年「禅牀夢美人」で日本藝術院賞を受賞、一九六〇年には日本藝術院会員となり、書道界の指導者としての頂点に立ち、一九六八年文化功労者となりました。その後、一九七四年に勲二等瑞宝章を受章しましたが、一九七六年八十七歳でその生涯を閉じました。

故郷である伊良湖岬には、一九六一年に麻統王の歌による『万葉の歌碑』が建立され、一九八七年には生誕一〇〇年を記念して、岬に近い恋路ヶ浜に『桃源』の書碑も建立されています。

今回の展覧会では、漢字・かな、その他先人の筆蹟を徹底的に追求し、日本の書の気品ある美しさを謳いあげ、翠軒流とまでいわれ、日本書道界の重鎮となった鈴木翠軒の没後五〇年にあたり、郷土において改めてその書作品や愛用品等を館蔵品を中心に展示紹介し、翠軒芸術の世界を堪能していただくようと開催します。

鈴木翠軒と万葉の歌碑



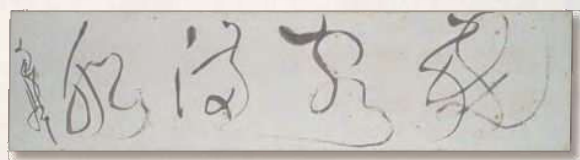
鈴木翠軒と万葉の歌碑



「白妙」(「万葉千首」
収納箱揮毫原本)
1965年



「万葉一首(巻3-343)大伴旅人歌」
なかなかひととあらずは さかつぼに
なりにてしかも さけにしみなむ



「酔客満船」1960年



落款印



硯



「艶容女舞衣 酒屋の段」津島市教育委員会蔵



筆



- JR・名鉄「豊橋」駅から豊橋鉄道渥美線乗車「三河田原」駅下車、徒歩15分(田原城跡内)
- 豊鉄バス伊良湖本線・支線「田原萱町」下車、徒歩10分
- 田原市ぐるりんバス「博物館入口」下車、徒歩3分



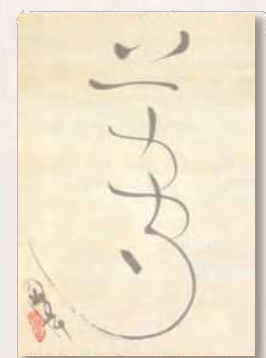
ホームページ



インスタグラム



「甲種 小学書方手本
尋常科用 第1学年」1933年



「夢」個人蔵

田原市博物館

〒441-3421 愛知県田原市田原町巴江1-1
TEL 0531-22-1720
<https://www.taharamuseum.gr.jp>